

情勢報告

ナス土佐鷹の定植前栽培講習会を各地区で開催



土佐鷹の栽培をマスターしよう

土佐鷹栽培講習会を安芸地域の各地区（3日安芸参加者16人、吉良川8人、4日赤野8人、5日中芸15人、6日芸西20人、12日穴内9人、計6地区76人）で開催した。講習会の目的としては、定植前に土佐鷹のポイントとなる栽培管理と栽培するイメージを生産者に習得してもらうことである。また現地検討会を9月から毎月行う地区もあり、土佐鷹の栽培技術習得に向けて少しずつではあるが確実に進んでいる。

生産者の反応は各地区で異なり、参加者が多く土佐鷹の栽培に対して熱心に質問をする地区と参加人数が少なく質問があまり出なかった地区もあり、地区ごとで土佐鷹に対する温度差を感じた。そのため安芸地域として、面積拡大・収量アップのために取り組みを継続していくことが必要である。

土着天敵の利用方法を学習



ゴマはいつ播くの？

平成21年度安芸市環境保全型農業推進事業の第2回勉強会を8月4日から4会場で開催し、72人が参加した。

最初に、安芸市農林課から補助対象資材の購入手続きやアンケート調査等について説明した。昨年のアンケート調査内容については、天敵利用の成功事例・失敗事例の分析に役だったことから、さらに充実した内容にしようと、農家からも積極的な発言があった。

続いて、当農業振興センターからゴマ苗を使った土着天敵（タバコカスミカメ）の本圃への放飼方法について、資料やスライドを使って、また実際にゴマ苗を見てもらいながら説明した。今年は、土着天敵温存ハウスグループ以外にも、ゴマを使ってタバコカスミカメを確保している農家が多く、ゴマの播種時期や苗数、本圃への導入時期などの体系が参考になったようで、「早速、次のゴマを播こう」との声があった。

すでにナスの定植が始まっている地区もあり、土着天敵の放飼時期や放飼量の違いなど、様々な条件での成功事例が集まると期待される。

奈半利町のイチジク勉強会



8月6日 JA 土佐あき奈半利支所イチジク部会の巡回、研究会を行った。現在部員が3名と以前の10名を超える部員数からはさみしい現状であるが圃場を巡回し、お互いの良いところや着色不良、スリップス被害果の対応など注意しなくていけないことへの意見を出し合いながら回った。農業振興センターからは、栽培の反省点と奈半利町イチジク振興（産業振興計画）の増反運動の説明を行った。

農家からは、頑張って取組み、部員や面積拡大をしたいとの意見が聞かれた。

JA 京都花き部会網野支部とのユリ産地交流会



7月に定植したハウス内で熱心に議論する。

8月17日に京丹後市網野町から JA 土佐あき花卉部球根部会（福田昌二部会長、11名）を訪ねてきた。これは先月、当方から訪ねて行ったことに対しての返礼でもあるが、夏季産地である網野町側はユリ切り花の品質向上を図る目的で、冬・春季産地である安芸市の栽培のスタート時点となる夏場の植え付け状況やハウス環境を視察研修して産地間交流を行った。

網野町視察者は午前10時から昼食をはさんで午後3時前まで暑いさなかハウスに入り、熱心に栽培状況を観察して、「かん水は何時からどれぐらいかけるの」、「寒冷紗は何をいつまで張るの」とか、安芸市の生産者を質問攻めにした。

今回は日帰りでの交流会でもありじっくりとは研修できなかったが、網野町とは条件の違う安芸市の夏を直に体感して、明日からどう生かそうかと思案する満足感が漂う中での別れとなった。

安芸市担い手協議会 ～認定農業者のフォローアップ支援～



赤野地区の状況

安芸市担い手協議会では、3年目の認定農業者（対象者132名）へのフォローアップ活動を8月21日～26日に実施し、農業振興センターも活動支援を行った。

この活動は、農家から、認定時の経営目標が再確認できたことや、新たな課題が見えてきた等の評価が得られた。

一方、農家の経営状態を見ると、近年の農業資材高騰や農産物価格の低迷等で計画通りになっていない農家も見られ、担い手協議会で検討すべき課題が出てきた。